

臨床検査技師の認知度向上をめざして

～超音波機器を用いた中学生体験授業～

◎星 勇喜¹⁾、齋藤 麻依子¹⁾、二瓶 憲俊¹⁾、五十嵐 早希²⁾、谷ヶ城 弘雄²⁾、渡部 里絵³⁾
 一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院¹⁾、財団法人 温知会 会津中央病院²⁾、特定医療法人 明精会 会津西病院³⁾

【はじめに】福島県臨床検査技師会会津支部では、中学生を対象とした体験授業（以下体験授業）を開始した。取り組みの内容と今後の課題について報告する。

【背景】当支部では2012年より臨床検査業務見学会（以下見学会）を実施し、認知度向上に努めてきた。10年以上継続してきたが会員負担が大きいなどの意見があった。実施内容を再検討し、2024年より体験授業を開始した。

【見学会と体験授業の比較】

	見学会	体験授業
開催場所	病院	各中学校（技師が出張）
技師数	20名前後	2～3名
開催日	土日	平日（授業の一環）

【体験授業の内容】会津若松市立第六中学校に協力頂き、体験授業を実施した。生徒自らプローブを用いて超音波検査を体験した。観察部位は中学2年生で学習する心臓、血管、腎臓を中心に行った。最後に臨床検査技師の紹介と資格取得に必要なプロセスを紹介した。

【アンケート】アンケートの内容は①授業内容に関する項

目、②医療系職業に関する項目、③臨床検査技師に関する項目とした。アンケート数73件。回収率100%。①ではおもしろかったが97%を占めた。②では授業前後で医療系に興味を持つ生徒の割合が25%増加した。③では臨床検査技師に関して80%が知らなかったと回答したが、授業後は90%の生徒が臨床検査技師の仕事を認知したと回答した。

【考察】アンケート結果より授業内容に関しては良好であったと考える。医療系職業に関して興味をもつ生徒が増加した。見学会では医療に興味のある生徒が対象であったが、体験授業は医療系職種に興味がない生徒も対象としている。広く医療系職種に興味をもってもらうには見学会よりも有用であると考ええる。

体験授業は、見学会と比較し会員の負担を軽減し、臨床検査技師の認知度向上にも有用な取り組みであると考ええる。

【今後の課題】実施方法を見直すことで、活動を継続することが出来た。「取り組みの継続」が今後の課題である。

連絡先 0242-29-9924

当院他職種連携における臨床検査技師の関わり

生殖補助医療部門介入への取り組み

◎國井 佳代¹⁾、後藤 聖那¹⁾、内海 祥平¹⁾、古城 尚子¹⁾
社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院¹⁾

【はじめに】

胚培養士とは日本卵子学会が認定する「生殖補助医療胚培養士」であり、不妊治療に携わる専門職である。農学部や生物学部で生殖について学んだ後に不妊治療を行っている施設で実務経験を積んで取得する場合が多い。

臨床検査技師が胚培養士業務を行うのに向いていると言われているが、その理由は事前の検査結果から患者の状態を推測できることや培養業務の中でピペット・顕微鏡操作が多いことなど検査技師が持つノウハウや技術を活かせる場面が多いからである。また採血や超音波技術を用いて診療支援も可能なため兼任の形で活躍することもできる。

当院は不妊外来を有し、一般不妊治療から山形県内で唯一の精巣内精子を用いた顕微授精などの高度な治療まで幅広く行っている。その機能と精度の維持、そして臨床検査技師資格を有するスタッフから胚培養士を育成することで臨床検査部として流動的な人員配置を可能にしたいという目的から生殖医療分野スタッフの育成を開始したため、その取り組みを報告する。

【経過】

今回の介入に際して他部署所属だった胚培養士1名を臨床検査部所属に変更し、人員配置の見直しと勤務調整を行った結果、検査部から3名育成することになった。

管理面では高度な医療を提供するに相応しい施設を目指し、臨床検査部の品質保証基準に準じるように変更した。育成計画については当院胚培養士と話し合いを行い、作成した育成スケジュールに沿って業務と並行して指導を受けた。

【結語】

業務習得を行っていく中で、一般検査で行っていた精液検査や生化学のホルモン値・感染症の結果がどのように臨床に繋がっているのか知ることができた。

生殖医療分野はこれからの需要も相まって、ますます発展していく分野である。今後は胚培養士資格を取得し、専門性が高いがゆえの人材不足をマルチタスクでカバーしつつ、チーム医療を支える一員として貢献していきたい。

ART 情報提供への取り組み

◎藤野 高志¹⁾、高橋 香菜子¹⁾
医療法人 いちかわクリニック¹⁾

【はじめに】

当院では、生殖補助医療（以下 ART）治療開始前にその内容、費用等々を説明する機会を設けている。

2022 年 4 月からは保険適用となり、費用の面からも治療が受けやすくなり、治療周期数も増加した。もちろん適用前は自費診療であり治療には高額な費用が必要であった。国、地方自治体、企業などは費用負担軽減の為に治療費助成制度を運用していたが充分ではなかった。

ART 治療は、費用以外にも説明事項は多く、すべてのインフォームドコンセントを医師が実施することは不可能に近い。そのため多くの施設ではその一部を医師以外の職種が担当している。

【実施方法】

- ・対象者：初回 ART 導入カップル
- ・実施者：医師・看護師・臨床検査技師（胚培養士）
- ・日程：事前予約制
- ・時間：概要説明約 60 分、医師から詳細説明約 15 分

【実施内容】

- ・ART の一般的な内容と日本での成績
- ・排卵誘発等の簡単な説明：自己注射、通院回数削減
- ・当院での治療の実際と注意点：卵、胚、精子の状況により治療方法が変更することもある。
- ・費用：診療報酬点数、高額療養費制度、助成金等

【まとめ】

ART は妊娠が当面の目標であるが、状況によっては期待に沿えない結果になる。このようなことから、当施設では ART 導入前に、必ずご夫婦一緒に治療内容の説明を行っている。最終的な治療方針は医師が決定するが、治療薬の選定、採卵、胚移植以外の操作は検査室勤務の胚培養士が実施しているのでより具体的に説明できる利点がある。最近は高額療養費、地方自治体独自の助成など治療費についても内容に盛り込んでいる。

子を望むカップルに納得して治療していただくこと、さらに、業務分担による医師の業務軽減にもつながる。

連絡先；いちかわクリニック 024(554)0303